

第1期中期目標期間業務実績 小項目評価検討資料

資料3

※委員評価欄の一は、法人の自己評価と同じ、の意
 ※確認事項がある項目は、小項目番号を○で囲っている

小項目	第1期中期目標期間評価			コメント(素案)	各委員からのコメント
	自己評価	委員評価	評価推移		
総括				-	この5年間で指摘された問題点が解決・改善したかという観点から評価することも必要である。この意味で、項目によっては評価(S~D)の5年間の推移を見る必要もあると思われる。
4	C	-	-	第1期中期目標期間中、十分に医師を確保できなかったことを踏まえ、今後の在り方や目標設定を再検討すること等を通じて、地域で安心して子どもを産み育ていけるよう、引き続き最優先課題として取り組む必要がある。	<p>地域で安心して子どもを産み育ていけるよう産婦人科医、小児科医の確保を今後も引き続き最優先課題として取り組む必要がある。</p> <p>この間、結局医師確保ができなかったことを踏まえて、今後の在り方や目標設定を再検討する必要がある。</p> <p>長期で見ても産婦人科医の確保の課題があり、C評価はやむを得ない。</p>
6	B	A	↓ A A B A A	(要検討)	<p>手術件数の目標だけでなく、この間の人口変動や臨床技術の動向も考慮すればBにするに及ばない。</p> <p>小児が減少している中で、実績件数だけでなく手術の質(内容・難易度)も大切である。専門病院としての役割を果たすべく努力されている。</p>
7	A	S	↓ S S A	ファシリティドッグの受入れやアキュートペインサービス等の小児医療における総合的な緩和ケアの取組みは、高い評価に値する。	ファシリティドッグの受け入れやアキュートサービスなどの小児医療における総合的な緩和ケアの取組みは高く評価できる。
13-1	C	-	↓ A A A A B	新病院開設に伴い手術室を倍増(6→12)したが、実際の稼働は8手術室となっている。手術室のフル稼働を図るべく、麻酔医等の手術スタッフの確保および十分な体制整備に努める必要がある。	<p>新病院開設に伴い手術室を倍増(6→12)したが、実際の稼働は8手術室となっている。手術室のフル稼働を図るべく、麻酔医等の手術スタッフの確保および十分な体制整備に努める必要がある。</p> <p>中期計画の目標値と年次計画の目標値との関係を確認する必要がある。</p> <p>C評価はやむを得ないが、医師の確保に向けて努力してもらいたい。</p>
13-2	A	-	-	新病院開設に伴い拡充された外来化学療法室(50床)だが、実際の稼働は32床程度にとどまっている。フル稼働を目指した十分な体制整備に努める必要がある。	新病院開設に伴い拡充された外来化学療法室(50床)だが、実際の稼働は32床程度にとどまっている。フル稼働を目指した十分な体制整備に努める必要がある。
13-3	A	S	↓ A A A A	平成24年度から3年間目標を上回る実績は、評価に値する。	平成24年度から3年間目標を上回る実績は評価できる。

小項目	第1期中期目標期間評価			コメント(素案)	各委員からのコメント
	自己評価	委員評価	評価推移		
13-4	A	?	↓ A	(要検討)	今年度新規開設で中期計画に個別具体の目標が無いものについて、何と比較して評価すればよいのか不明である。
		?			平成26年度からの取組みであり、何と比較して評価すればよいのか不明である。
14	A	S	↓ A S A	平成23年度実績に対し、放射線治療全体の実患者数が2.5倍(433人→1,080人)、IMRTの実患者数が47倍(2人→94人)と大幅に増加したことは高く評価できる。	平成23年度実績に対し、放射線治療全体の実患者数が2.5倍(433人→1,080人)、IMRTの実患者数が47倍(2人→94人)と大幅に増加したことは高く評価できる。
17	A	B	↓ A A A A A	(要検討)	カテーテルアブレーションの目標達成率が63.7%に止まりながら、自己評価をAとしている理由を確認したい(病院として最も重きを置いている目標値は何か)。
18	A	B	↓ A A A A B	(要検討)	昨年度は間質性肺炎の実績が高く評価されて全体でA評価であったが、今年度は項目を分けたのであれば、間質性肺炎の実績以外の部分については、B評価が適切ではないか。
		—			肺がん治療については画期的な新薬が開発されており、がんセンターと循環器呼吸器病センターとの棲み分けがポイントである。
21	A	—	—	今後は医療機能評価指標を公表するだけでなく、指標を用いた各病院の取組みや改善状況をわかりやすく県民に説明することが必要である。	今後は医療機能評価指標を公表するだけでなく、指標を用いた各病院の取組みや改善状況をわかりやすく県民に説明することが必要だと考える。
23	A	B	↓ A A A A A	がんセンターは中期計画期間中に新病院をPFI方式で開業したが、重粒子線治療施設については、当初の目標である26年度治療開始を実現しておらず、B評価が適切である。	がんセンターは中期計画期間中に新病院をPFI方式で開業したが、重粒子線治療施設については、当初の目標である26年度治療開始を実現していない。
25	A	—	—	各病院で様々な取組みがなされているが、何をもちいて目標を達成したと言えるのか明確にする必要がある。	各病院で様々な取組みがなされているが、何をもちいて目標を達成したと言えるのか明確にする必要がある。
27	A	—	—	がんセンターにおいて治験受託件数および受託研究件数が、平成22年度に比べ大きく増加していることは、高い評価に値する。	がんセンターにおいて治験受託件数および受託研究件数が平成22年度に比べ大きく増加していることは高く評価できる。
29	A	S	↓ A A A A	ヒヤリ・ハット事例の報告件数が平成23年度比で1.1倍増加し、発生医療事故件数は半減していることは評価に値する。	ヒヤリ・ハット事例の報告件数が平成23年度比で1.1倍増加し、発生医療事故件数は半減していることは評価できる。
33	A	S	↓ A A A A A	クリティカルパスの設定数が平成22年度比で1.5倍(167件→255件)と大きく増加したことは高く評価できる。今後はクリティカルパスの新規入院患者に対する適用率を目標値として示して欲しい。	クリティカルパスの設定数が平成22年度比で1.5倍(167件→255件)と大きく増加したことは高く評価できる。今後はクリティカルパスの新規入院患者に対する適用率を目標値として示して欲しい。

小項目	第1期中期目標期間評価			コメント(素案)	各委員からのコメント
	自己評価	委員評価	評価推移		
34	A	B	↓ A A A A A	病院合計の地域医療連携室等への診療相談数は平成22年度比で94%であり、B評価が適切である。	病院合計の地域医療連携室等への診療相談数は平成22年度比で94%となっている。
35	A	S	↓ A A A A A	セカンドオピニオン総数は平成22年度比122%と大きく増加しており、S評価が適切である。	セカンドオピニオン総数は平成22年度比122%と大きく増加した。
39	A	S	↓ A A A A A	クレジットカードやコンビニ収納などの多様な支払い形態による収納実績は、平成22年度比1.5倍となっており、評価に値する。	クレジットカードやコンビニ収納などの多様な支払い形態での収納実績は平成22年度比1.5倍となっており評価できる。
41	A	B	↓ A A A A A	産婦人科医、麻酔科医の補充が不十分である。	産婦人科医、麻酔科医の補充が不十分である。
42	A	B	↓ A A A A A B	これまで、配属確定型と自由採用型を併行しながら上手に使い分けることで、離職率の低下につながってきたと思われるが、実績上はB評価が適切である。	減少要因にもよるが、実績上はB評価ではないか。
		—			これまで、配属確定型と自由採用型を併行しながら上手に使い分けることが離職率の低下につながってきたと思われる。
44	A	—	↓ A A A A A	残業や有給休暇の取得率について組織としての目標値を掲げる必要がある。残業や有給休暇取得率について職種別、年次別等の詳細な分析を行い、さらなる職場環境の改善を行う必要がある。	残業や有給休暇の取得率について組織としての目標値を掲げる必要がある。残業や有給休暇取得率について職種別、年次別等の詳細な分析を行い、さらなる職場環境の改善を行う必要がある。
		B			8.1日の取得は少ないのではないかと。リフレッシュ休暇の取得率も低いのではないかと。
50	A	B	↓ A A A A A	足柄上病院に早急に電子カルテシステムを導入すべきである。	足柄上病院に早急に電子カルテシステムを導入すべきである。
52	A	—	—	循環器呼吸器病センターについては、平成22年度比で病床利用率、入院実患者数ともに数値が悪くなっている。適切な原因分析と対策を講じることが必要である。	循環器呼吸器病センターについては、平成22年度比で病床利用率、入院実患者数ともに数値が悪くなっている。適切な原因分析と対策を講じることが必要である。
53	A	B	↓ A A A A A	各病院において査定率が増加しており、 B評価が適切である。	各病院において査定率が増加しており、5年分の評価もBが妥当ではないかと。
54	A	—	↓ A A A A A	(要検討)	自己評価の判断理由について補足説明が欲しい。
		?			4千万円弱の未収金縮減がA評価に値するかどうか、判断が難しい。
55	A	S	↓ A A A A A	中期計画目標値に対し、後発医薬品の品目採用率は112%、金額採用率は128%と大きく目標を上回ったことは評価できる。	中期計画目標値に対し、後発医薬品の品目採用率は112%、金額採用率は128%と大きく目標を上回ったことは評価できる。